事故の怖さ、ルールの大切さを伝える交通安全啓発を実施しています

皆さんが事故に巻き込まれないよう、本市では市民や関係機関と協力して交通安全啓発を行っています。例えば、中学校や日本語学校などではスケアードストレート型の交通安全教室を実施。スタントマンによる事故の再現で、交通ルールやマナーを伝えています。保育所などでは腹話術での講話や模擬道路を使った実習で、幼少期から交通安全について触れる機会を設けています。市内全小学校の4年生と6年生を対象に、児童文化センターでは自転車教室を実施。自転車の正しい乗り方やルールを教えています。

一瞬の気のゆるみが 恐ろしい事故に…

事故を起こしてしまった場合、加害者はさまざまな責任を負うことになります。これらの責任は自分一人の問題ではありません。家族や周りの人を巻き込むことになり、生活が一変します。被害者が軽いけがで済む場合もありますが、後遺症が残ることや、最悪の場合は亡くなってしまうこともあります。このような大きい事故では、加害者の謝罪が被害者側から拒否されてしまうケースも見てきました。みんなを不幸にしてしまう事故は、本当に恐ろしいものです。

交通事故はいつどこで、誰の身に起こるか分かりません。事故を起こしている人のほとんどは、普通に生活をしていて働いていて家族がいて、というような本当に一般の人たちです。事故現場は悲惨で、震えている人や座り込んでしまう人もいます。自分が事故を起こすとは誰もが思っていませんから、実際そうなった時は頭が真っ白になってしまうのでしょう。すぐに警察や救急車を呼べない人も少なくありません。

道路環境は日々変わります。天気や車の量など、いつも通る道でも日によって状況は変わります。道路の状況が変わるのに合わせて、ドライバーの意識も変えなくてはなりません。不注意やだろう運転など、一瞬の気のゆるみが事故につながってしまいます。運転する時は集中すること、そして交通ルールを守り自己流の運転を見直すことが、事故を防ぐために大事だと思います。

前橋警察署交通課
警部補　並木 隆さん

いつもの道で 突然車が目の前に…

3月に関根町の交差点で交通事故に遭ってしまった、市内在住の女性にお話を聞きました。

事故に遭った交差点は、いつも通っている場所でした。その日は残業で帰りが遅く、道路もすいていて見通しが良かったんです。先の方を見て運転していて、突然車が目の前に現れました。仕事の疲れもあって、正面から曲がってくる車をよく見ていなかったんだと思います。気が付いたらエアバックが全部出ていて、体は動かせない状態でした。なんとかスマートフォンを探して、真っ先に主人に電話しました。最初に救急車や警察を呼べなかったのは、今思えば気が動転していたのだと思います。

相手の方はろっ骨などを骨折し、私は首の骨を骨折してしまい、3カ月間入院しました。病院で、最初3日間は何があってもおかしくない、と言われ家族にはとても心配をかけました。職場など周りの人にもたくさん迷惑をかけてしまったと思います。

事故の衝撃が頭に焼き付いていて、今でも交差点を通る時は怖いし、体に力が入ります。時間も気持ちも、余裕を持たなければならないなと身をもって痛感しました。

事故が起きた交差点